

## ゼミ履修の手引き第1部 ゼミとは何をするとところ？

### 1. 「ゼミは履修した方がいいのか？」——ゼミの意義とは

キャリアデザイン学部では、ゼミは必修ではありません。ゼミを履修しなくても、卒業要件を充たせば、卒業できます。だからこそ、漫然とゼミ選びをするのではなく、ゼミで学ぶとはどういうことか、考えて下さい。

ゼミで学ぶ意義は、それぞれのゼミによって、一つではありません。学生個人にとってもその意義は異なるでしょう。ただし、共通する意義も存在します。それは、他人から与えられたものや他人に指示されたことを上手にこなして終わるだけの人間ではなく、自分の頭で考え、自分の責任において行動する人間になるよう、技と心を磨く、ということです。

もちろん、上司の指示に従ったり、人びとの要望に応えたりして、きちんと仕事をこなせることは大切です。けれども、そこで止まってしまうのではなく、自分の頭で考え、自分の責任において行動できる力をつけておく。ゼミは、まさしくそのための場所です。

ゼミでは主体的な学びが求められます。自分の問題意識をもとにテーマを掘り下げていくことは、簡単なことではありません。知らないという自分に向き合うこと、できないという自分に向き合うことには不安が伴います。だからこそ、そのような機会を前に逃げず、踏み出すことによって自分を成長させ、自信をつけてほしいと私たちは願っています。

教員たちも、ゼミの先輩たちも、あなたの参加を待っています。

### 2. 「ゼミって、何をするとところ？」——ゼミの多様性と共通点

キャリアデザイン学部のゼミは、領域・テーマが多様であるだけでなく、スタイル・方法の面でも、各ゼミによって大きな違いがあります。たとえば、ゼミで追究するテーマについても、

- ・ゼミ全体で共通テーマを追究する
- ・大きなテーマをサブ・テーマに分け、グループごとにサブ・テーマを追究する
- ・個々人で個別テーマを追究する

といった違いがあります。研究テーマへのアプローチ方法についても、

- ・専門文献の講読
- ・アンケート実施など量的データの分析の収集と分析
- ・インタビューや参与観察をとおした質的データの収集と分析
- ・体験活動・実践活動とその記述・分析

などのなかで、どこに比重を置いているかは、ゼミによって違いがあります。

さらに、2～4年生の関係についても、

- ・2～4年生が合同でゼミを(常時/時々)実施
- ・学年ごとにゼミを実施

などの形態があります。教員の主導性についても、

- ・教員の主導性が強いゼミ
- ・学生の自主性に任せる度合いが強いゼミ

があります。さらに、

- ・3年次終了時点などにおいてゼミ論の取りまとめを求めるゼミ
- ・共同制作物を制作するゼミ
- ・卒論執筆が必須であるゼミ

などもあれば、そうでないゼミもあります。合宿の有無や回数もさまざまです。

以上のように、実に多様です。でも、全てのゼミに共通することが2点あります。

(1)ゼミとは主体的な学びの場である

(2)個々人がゼミで何を身につけられるかは、主体的にゼミに参加し深く学ぶか否かによる

では、ゼミで主体的に深く学ぶとは、具体的に何をすることなのでしょう。それは、「学問」という言葉の成り立ちを見てみるとわかります。「学」んで「問」う、と書いて「学問」ですね。つまり、知識や理論の習得のうえに、「知的好奇心」と「批判的思考」を發揮して、「問い」を見つけ、「問い」を深めていく。この営みを共同で——ともに学ぶ仲間とゼミ教員とで——行なう場が、ゼミなのです。

主体的な学びを重視しているため、時間割の時間外にも様々な活動が求められるゼミが多いです。学生だけのサブゼミの場を別途持っているゼミもあります。詳しいことは、各ゼミの募集要項を確認してください。ゼミへの参加姿勢が受け身である学生や欠席しがちな学生の存在はゼミの雰囲気にも悪影響を及ぼしますので、ゼミ教員がゼミの継続履修を認めないことがあります。

なお、「ゼミに入っておく方が就職に有利だ」というのは全くの誤りです。形だけゼミに所属していても、意味はありません。よく考えて、大学生活をしっかりとデザインしてください。

多くのゼミでは4年次に卒業論文の執筆を求めています。卒論の執筆は、調査対象者と適切な関係を取り結んだうえでの調査の実施、先行研究とみずからの知見の厳密な書き分けなど、研究倫理を踏まえた研究をゼミ教員の指導のもとに実践的に学ぶ機会でもあります。4年間の学びの集大成として、ぜひ卒論執筆に挑戦してください。

### 3. 「どうやってゼミを選んだらいいの？」——良い選び方とダメな選び方

#### (1)ダメな選び方／良い選び方

ダメな選び方の典型を4つ挙げます。

その1。「友だちと一緒に入れそう」——論外。ゼミは仲良しクラブではありません。

その2。「どこでもいいんです。ゼミって、どこかに入っておけばいいと思ったんで」——論外。こういう気持ちの学生は、ゼミに入る資格はありません。

その3。「〇〇ゼミって、就職に有利らしいよ」——いいえ。どこかのゼミに所属することは、「就職に有利」であることを決して保証はしません。ゼミ活動が就職に有利に働く局面があるとするならば、それは、そのゼミで意義ある研究成果を出したか、それを採用選考において説得的に説明できたかによるのであって、どの教員のゼミであったか、テーマが何であったかによるのでは決してありません。

その4。「楽しそうなゼミだなあ！」——そのゼミは、自分の関心・やりたいことと合致していますか。雰囲気だけでゼミを決めるのは、お勧めできません。

では、どんなのが良い選び方なのでしょう。それは、「これまで自分はこの学部で何を学んできたのか」をふり返り、「今後はどのような専門領域の授業を中心に履修し、どのような専門性を身につけていくか、どのように自分のポテンシャルを發揮していくか」を考えながら選ぶ選び方です。

## (2)各教員の募集要項を読み比べる——決め込みと思ひ込みは後悔のもと

ゼミ選択のために、まず基本となる情報源は、別ファイルに収録した、各教員のゼミ募集要項です。これをよく読み比べてください。

少なくとも、選んだ領域については全部熟読しましょう。他領域のゼミについても目を通してみましょう。自分の興味関心に合いそうなゼミをいくつかピックアップして、詳しく比較検討してみましょう。

ゼミ教員の専門領域、ゼミのテーマ、進め方、ゼミ生に期待すること・要求されること、ゼミの時間帯(必ずしも時間割に定められた時間だけにゼミが行なわれるとは限りません)、応募条件……ゼミの記載事項をよく確認してください。

## (3)ゼミの教員とゼミの実際を深く知る——募集要項だけで「わかった」気にならない

募集要項を読んである程度ゼミを絞り込めたら、さらに情報収集しましょう。募集要項は大幅に紙幅が制限されているので、伝えられることはほんの一部にすぎません。したがって、募集要項だけを読んで判断せず、信頼できる情報源からさらに情報を収集しましょう。ポイントは、「ゼミの先生はどのような先生か」「ゼミは実際にどのように進められているのか」の両面から情報収集をすることです(詳しくは、下記の「ゼミ教員を深く知る7つの方法」を参照)。

また、ゼミの実際を知ること、あなたの行動力・リサーチ力次第。百聞は一見に如かず、です(詳しくは下記の「ゼミの実際を知る4つの方法」を参照)。

### 【重要スキル】ゼミ教員を深く知る7つの方法

※文中の「キャリア情報ルーム」は、大内山校舎3階にあります。

#### ① 専門の授業を受講する

希望するゼミの教員の授業を、あなたは受講していますか。学部の専門授業のほとんどは、2年次から受講可能です。あなたがその教員の専門領域に関心を持っているならば、その教員の専門授業を既に受講していることでしょう(新任教員の場合などは別ですが)。その教員の授業に参加して、興味関心が引き出され、さらにその教員のもとで学びたい、と考えてゼミを履修することは、ひとつの理想的流れと言えます。また、関連分野の専門授業も受講していることが望まれます。

何らかの事情で、希望するゼミの教員の授業をまだ受けていない場合には、その教員の専門科目の内容をシラバスで調べ、時間割を確認し、実際に体験的に受講してみるとよいでしょう。

#### ② 「キャリアデザイン学部履修の手引き」の「学部専任教員」紹介を読む

各教員が何を専門領域とし、どのようなキャリアを経た教員であるかは、「キャリアデザイン学部履修の手引き」p.44からリンクがある「学部専任教員」紹介で確認できます。

#### ③ 「法政大学学術研究データベース」を検索する

「法政大学学術研究データベース」を検索すると、各教員の主要業績(書いた論文や著書、学会発表など)を過去にさかのぼって知ることができます。授業だけでは見えてこないその教員の研究テーマや研究業績を知ることができます。社会活動についても記されています。

「法政大学学術研究データベース」にアクセスするには、法政大学HP→「研究」→「学術研究データベース」とたどってください。

#### ④ 著作・論文を知る・読む

法政大学図書館のOPACや、CiNii Books(全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース)、NDL ONLINE(国立国会図書館の蔵書検索システム)などにより、各教員の著作を知ることができます(ただし、編著に収録されていて、1つの章だけ担当して執筆したような場合は、検索にヒットしないことがあります)。

Google Scholar は学術論文、研究者の情報の検索に最も広く利用されています(※1)。Webcat Plus というサイト(※2)からは、キーワードから関連する書籍が検索できるだけでなく、共著に収録された論文なども検索ができ、公立図書館における所蔵もあわせて検索ができます。また、CiNii Research というサイト(※3)からは学術論文の検索ができます。

※1:<https://scholar.google.com>

※2:<http://webcatplus.nii.ac.jp/>

※3:<http://ci.nii.ac.jp/>

#### ⑤ グーグルで検索してみる

グーグルで検索してみれば、各教員が学外で行なった講演や各種研究会・委員会への参加などの状況を知ることができるかもしれません。

#### ⑥ ホームページ、ブログ、SNSなどを参照する

教員やゼミによっては、独自のホームページやブログを開設していたり、FacebookやXなどSNSを活用していたりします。

#### ⑦ 直接相談してみる

ゼミに関して、直接訊きたいことがあれば、メールで相談する、メールでアポイントメントを取ってオンラインでの相談の時間をいただく、などの方法で直接相談することもできます。教員によって、相談の方法を募集要項に明示している場合もありますので、確認してください。

### 【重要スキル】ゼミの実際を知る4つの方法

#### ① ゼミ相談会・説明会に参加する

ゼミによっては、教員またはゼミ生によるゼミ相談会・説明会を実施する場合があります。どのような方法で行われるかは、各教員の募集要項をよく確認してください。

#### ② ゼミの先輩に個別に話を聞く

自分が希望するゼミの先輩に個別に話を聞くことは、あなたの工夫次第です。就職活動では「OB・OG訪問」によって、公式情報だけではわからない企業の実態・働き方の実態を学生が自分自身で先輩から情報収集する、ということが大切なプロセスとなっています。ゼミ選びも、これと同様です。自分からゼミの先輩を見つけて、個別相談の時間を設けてもらうよう、お願い・交渉してみてもよいでしょう。

### ③ 「卒論要旨集」を読む

「ゼミ選択参考資料」から、ゼミごとの卒論の要旨集を閲覧することができます。これを読むことで、それぞれのゼミのテーマや、テーマ追究の方法の特徴などを知ることができます。

### ④ ゼミ成果物を読む

ゼミによっては、各年度末にゼミの共同研究の成果や、個人研究の成果を冊子にまとめている場合があります。関心があれば担当教員に尋ねてみましょう。

## 4. 「選考に外れたくない……」——二次選考・三次選考に備えよ

### (1) 人生は選ぶこと・選ばれることの連続である

「人生は選ぶこと・選ばれることの連続である」。残念ながら毎年、このことを理解していない学生がいます。ゼミ選考は就職活動と同じで、あなたが応募先を選ぶプロセスであると同時に、あなたが選考されるプロセスでもあります。

自分がゼミの応募書類を書く際には、選考する側の視点を念頭に置きましょう。形だけの志望理由は、見透かされます。そのゼミを知るためにあなたがどのような努力をしたかも、応募書類に反映されるでしょう。

選考に外れたくないのは誰でも同じです。外れたくなかったら、最善の努力を尽くしてください。

### (2) 万が一に備えよ——二次・三次希望を考えておく

しかし努力が叶わず、第二・第三希望に回らなければならないことも、人生、多々あります。慌てなくて済むように、たとえどれだけ一次希望のゼミに自信があったとしても、あらかじめ、第二・第三希望のゼミも決めておいて、情報収集をしておきましょう。

## 5. 「志望理由って、どう書くの？」——書き方には鉄則がある

### (1) 書き方の鉄則・その①——課題・要求に従う(要件を充たす)

たいいていの場合、志望理由には、こういうことを書いて下さい、という課題・要求があります。これをきちんと充たして下さい。

充さない例を挙げましょう。「①関心のあることを疑問形で書いてください、②なぜその疑問を解き明かすことが重要だと思うのか、自分なりに書いて下さい」という課題・要求にもかかわらず、「私は〇〇について関心があります。なぜなら私は高校生の頃から、しかじかのボランティアをやっていて、そこでかれこれの体験を云々……」としか書かれていないものなどがそれにあたります。

課題・要求はゼミによってさまざまです。それに対応できるよう、しっかり記載を読み込み、準備して下さい。

### (2) 書き方の鉄則・その②——読み手が求めているものに考察を巡らせる

あなたの書いた文章には、読み手があります。読み手の立場に立って書くことを、あなたはこれまで、心がけてきましたか。今後は、また社会に出ればなおさら、この力が要求されます(一番近いのは、インターンシップや就職活動のときに提出する志望理由書やエントリーシートでしょう)。ゼミ履修における志望理由は、絶好のトレーニングの一つです。

志望理由の読み手は私たち教員であり、ゼミ生を選ぶための書類です。したがってみなさん

は、「ゼミ選考において、教員は何を求めているのだろうか？ 自分が教員の立場だったら、志望理由をどのように読むだろう？」と考えを巡らせることが肝心です。

### (3) 志望理由の控えを取っておく

残念ながら一次募集で決まらなかった人は、二次募集に応募することになります。ここでも、二次募集にあたって、私たち教員が、あなたたちの何を知りたいと思っているのか、という点に考えを巡らす必要があります。私たち教員は、「一次ではどのゼミに、なぜ応募したのだろうか。二次で私のゼミに応募してくることと、一次の応募との関連はどこにあるのだろうか？」と思います。

したがって、「一次応募で提出した志望理由のコピーを、あわせて提出すること」あるいは「一次募集でどのゼミに、どんな理由で応募したか、また、なぜ二次でこのゼミに応募するのも書きなさい」といったことも要求される場合があります。

申請フォームでの回答内容はg-mailに送信されるようになっていますが、控えを必ず保存しておいてください。

以上